

平成25年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育企画課

平成25年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後の県立高校改革の動向を踏まえ、分析結果を活用しながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

I 実施対象

生徒	全県立高校（全課程）の卒業学年・年次の生徒
保護者	上記生徒の保護者
新タイプ校教員	「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの高校37校43課程の常勤教員（対象校は別紙参照）
学校評議員	「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの高校37校43課程の学校評議員（対象校は別紙参照）

II 実施時期

平成25年12月～平成26年3月

III 集計区分

課程	学科	学びのしくみ	校数	対象校
全日制	普通科	学年制	98	鶴見、横浜翠嵐、城郷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、希望ヶ丘、旭、松陽、瀬谷、瀬谷西、横浜平沼、光陵、保土ヶ谷、舞岡、上矢部、金井、横浜南陵、永谷、柏陽、横浜緑ヶ丘、横浜立野、磯子、氷取沢、釜利谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、大楠、逗子、逗葉、鎌倉、七里ガ浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、湘南台、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、寒川、平塚江南、高浜、大原、大磯、二宮、秦野、秦野曾屋、伊勢原、伊志田、西湘、足柄、大井、山北、厚木、厚木東、厚木北、厚木西、海老名、有馬、愛川、大和、大和南、大和東、大和西、座間、綾瀬、綾瀬西、麻溝台、上鶴間、相模大野、上溝、相模原、上溝南、橋本、相模田名、城山、津久井
		単位制	11	神奈川総合、横浜旭陵、横浜桜陽、横浜栄、川崎、三浦臨海、平塚湘風、小田原、厚木清南、藤沢清流、相模原青陵
	総合学科	単位制	11	鶴見総合、横浜緑園総合、横浜清陵総合、金沢総合、大師、麻生総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合、相模原総合、吉田島総合
	専門学科	学年制	16	神奈川工業、二俣川看護福祉、商工、磯子工業、川崎工科、向の岡工業、横須賀工業、藤沢工科、平塚農業、平塚工科、平塚商業、小田原総合ビジネス、小田原城北工業、厚木商業、中央農業、相原
単位制		5	横浜国際、横須賀明光、海洋科学、神奈川総合産業、弥栄	
定時制	普通科	学年制	7	横浜翠嵐、希望ヶ丘、横須賀、追浜、茅ヶ崎、伊勢原、津久井
		単位制	5	川崎、小田原、厚木清南、湘南、相模向陽館
	総合学科	単位制	5	磯子工業、向の岡工業、平塚商業、秦野総合、神奈川総合産業
	専門学科	学年制	3	神奈川工業、平塚農業初声分校、小田原城北工業
通信制	普通科	単位制	2	横浜修悠館、厚木清南

IV 実施内容

生徒の回答者数及び回答率

区分		対象者数	回答者数	回答率	
全日制	普通科	学年制	26,705 名	22,668 名	84.9 %
		単位制	2,319 名	1,937 名	83.5 %
	総合学科		2,452 名	2,082 名	84.9 %
	専門学科		4,407 名	3,870 名	87.8 %
定時制		1,173 名	894 名	76.2 %	
通信制		484 名	376 名	77.7 %	
全体		37,540 名	31,827 名	84.8 %	

保護者・新タイプ校教員の回答者数および回答率

	対象者数	回答者数	回答率
保護者	37,540 名	13,176 名	35.1 %
新タイプ校教員	1,877 名	1,420 名	75.7 %

V 結果の概要（次項以降）

1 生徒向けアンケート結果

- (1) 高校生活を振り返って、あなたが通っている学校に満足していますか。
- (2) キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか。
- (3) 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか。

2 生徒と保護者の満足度の比較

3 学校評議員の意見

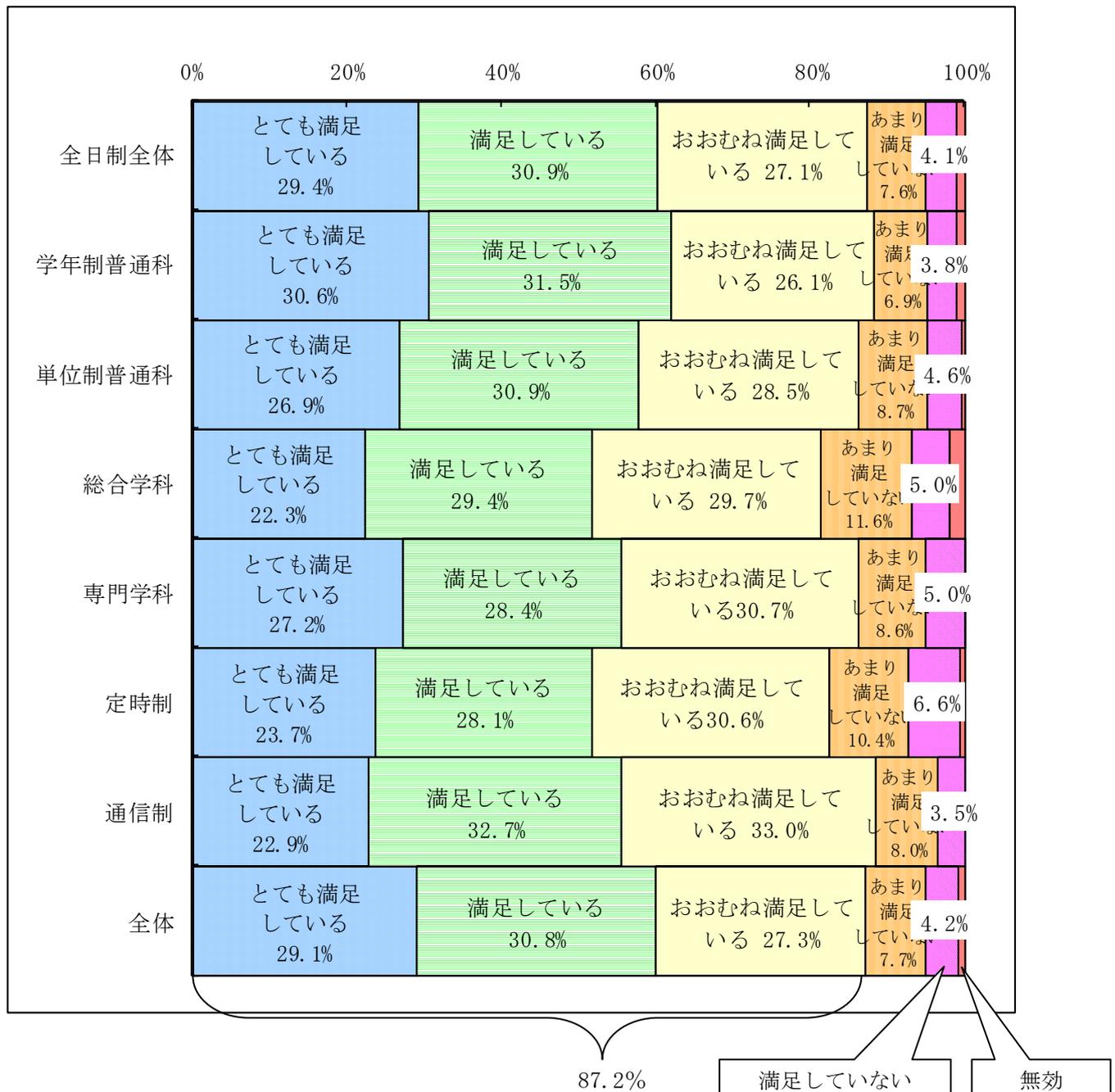
4 新タイプ校教員向けアンケート結果

1 生徒向けアンケート結果

学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

(1) 高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。

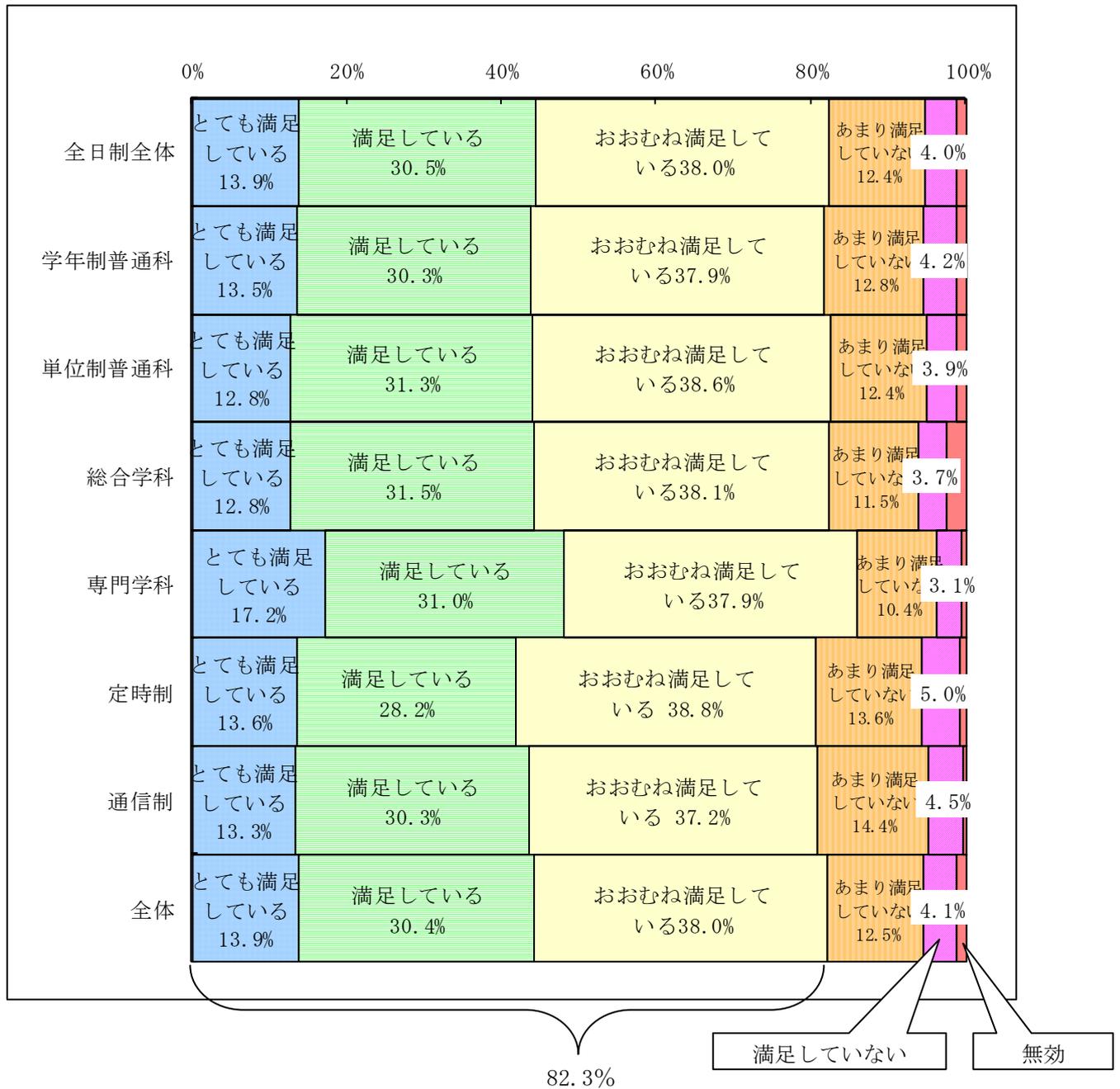
「高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。」という設問に対して、「とても満足している」「満足している」「おおむね満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の87.2%となり、平成23年度（83.8%）、平成24年度（86.6%）と、その割合は年々高まっている。



(2) キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか。

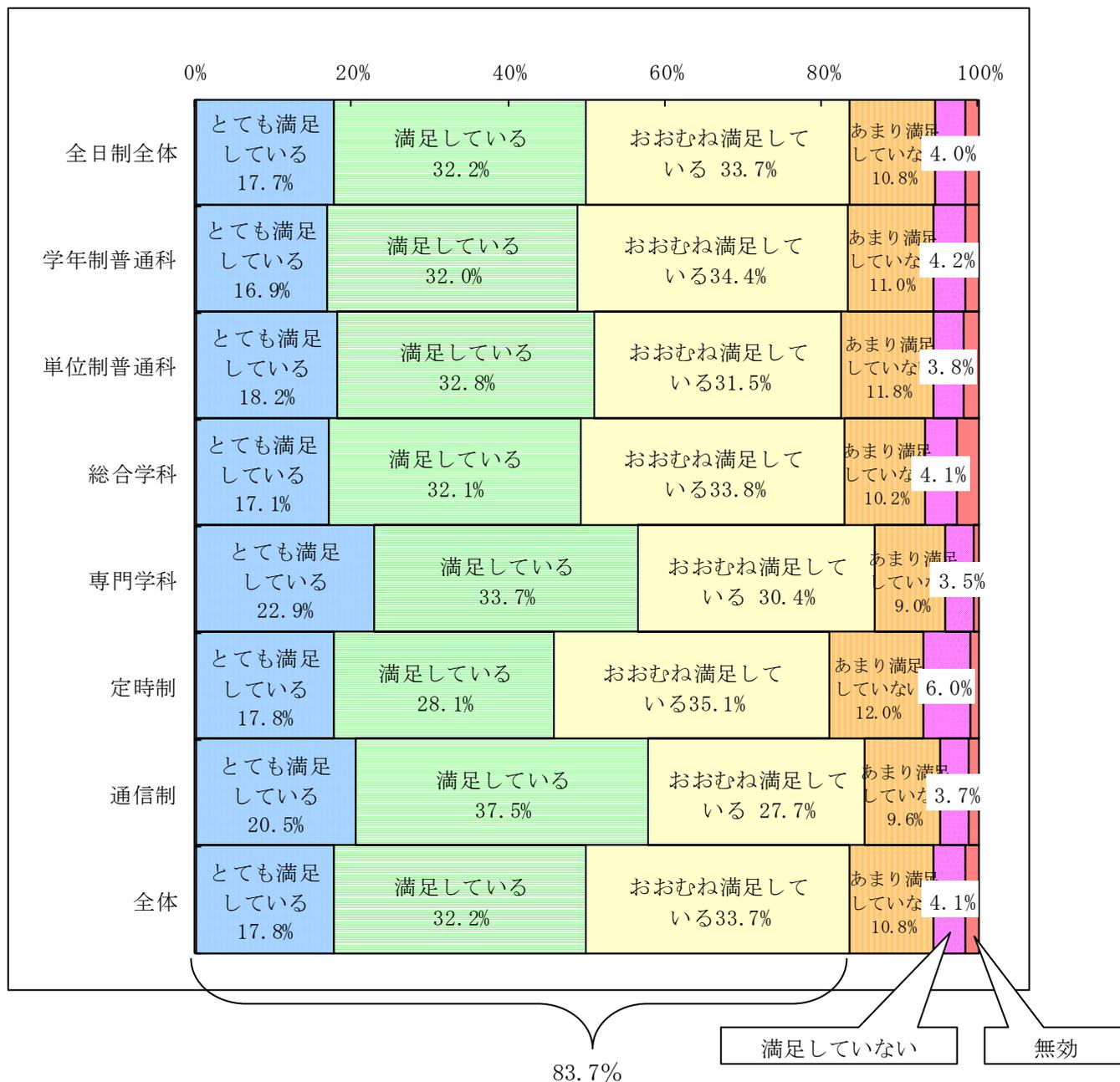
「生涯を通じた自分の生き方・あり方について考え、勤労観・職業観を身に付けるための教育（キャリア教育）により、自分が成長できたと思いますか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の82.3%となり平成23年度（77.9%）、平成24年度（80.5%）と、その割合は年々高まっている。

全日制の課程での満足群は、専門学科86.1%（平成22年度81.0%、平成23年度82.5%、平成24年度84.5%）が、平成22年度調査開始以来、他の学科より高い割合になっている。



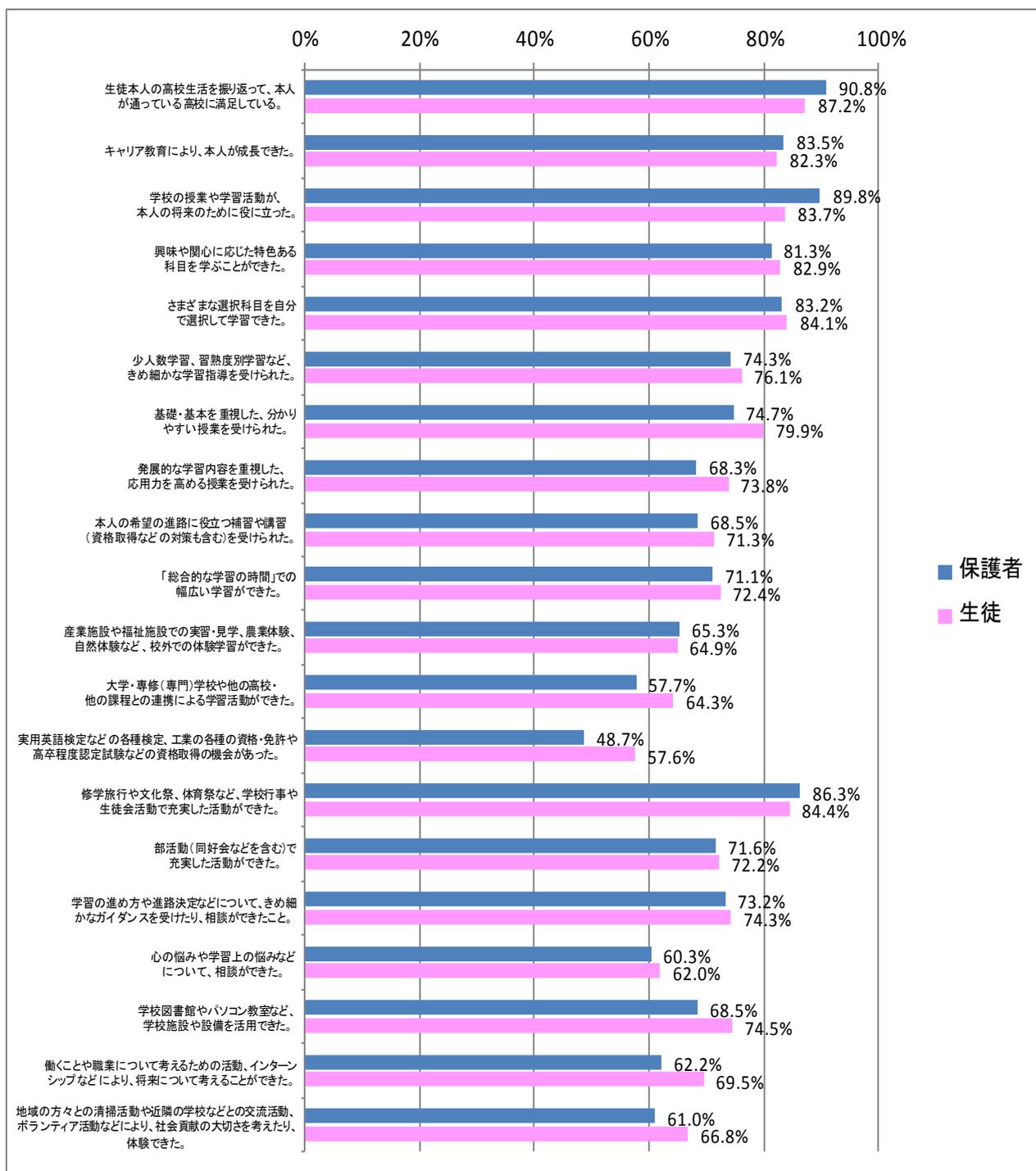
(3) 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか。

「学校の授業や学習活動が、将来の自分のために役に立つと思いますか。」という設問に対して、生徒全体の満足群は83.7%で、平成24年度（83.4%）に比べてほぼ横ばいになっている。学校種別では、全日制専門学科の満足群が87.0%（平成24年度は85.4%）及び通信制の課程の満足群が85.7%（平成24年度は87.4%）と高い割合になっている。



2 生徒と保護者の満足度の比較

生徒と保護者共通の設問について、それぞれの満足群を比較した。「生徒本人が通っている高校に満足していますか。」という設問に対する保護者の満足群は90.8%と、生徒の満足群（87.2%）より高い割合になっており、平成24年度の保護者の満足群（90.2%）と同水準で推移した（平成23年度は91.1%）。その他の項目においては、生徒の満足群と保護者の満足群の割合が、同じ水準となっている。その一方で「学校の授業や学習活動が本人の将来のために役立った」との設問は、保護者の満足群の割合が生徒の割合よりも6.1ポイント高くなっている。また、逆に保護者の満足群の割合が生徒の割合より7.0ポイント以上低くなっている項目は2項目（平成24年度は7項目）であった。



3 学校評議員の意見

【対象】「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの県立高校37校の学校評議員

【対象校】別紙参照

【内容】新校についての印象や新校に期待することなど、新校への意見

【意見集約の方法】各学校において、学校評議員会を通じて伺った意見を、「これからの県立高校のあり方」の6つの柱に分類し、取りまとめた。

(1) 幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育の展開 <教育課程>

- 子どもたちはかなり期待を持っている。自分でカリキュラムを作り上げて将来像を作り上げていくシステムに魅力を感じている。ここでしかできないそのようなシステムを継続していただければと思う。
- 総合学科の子どもたちは自分の将来像を持ち切れていない生徒が多く志望している。それに沿うような教育活動やカリキュラムをお願いしたい。
- 単位制システムへの理解が十分でない生徒、保護者がいる中で履修説明を複数回実施することは効果的である。なお一層の取組に期待する。
- 通信制の特質の一つである個別対応についての取組への熱意、努力が感じられます。今後も一人ひとりの必要な支援に応じた指導をお願いします。
- 特色ある教科・科目が設定されているので、いろいろな科目を選択する中で、3年間やっていくうちに結果が出てくるといふ面白さを新タイプ校では生徒に実感してほしい。
- 単位制高校として、多様なニーズに対応する教育課程の工夫がなされている。反面、多数の選択科目など複雑であるがゆえに、進路目標を明確にしないと科目選択に失敗してしまう恐れがある。
- 三修制を利用して卒業する生徒が多いことに驚いた。3年間または、4年間での卒業を選択できるなど自由度が高く生徒一人ひとりのニーズに合わせることができるとは評価できる。

(2) 生徒一人ひとりに応じたきめ細かな教育支援 <生徒指導・生徒支援>

- 卒業までいたらない生徒が多い。HRを毎日実施するなど先生と生徒との関係を密にすることも必要ではないか。問題行動を伴わない生徒へのきめ細かな指導を充実させることが重要である。
- 「基本的生活習慣の確立」が家庭でカバーできない状況が増えているのであれば、学校が担うことが必要である。
- 高校生は思春期で人間形成にも重要な時期なので、部活動や学校行事等の集団活動も大切にして、自主性と集団性の両方を育める学校として頑張ってもらいたい。
- 自分が大切であることがわかっていなければ人を思いやることができない。コミュニケーションの大切さも含めてそのことを生徒へ伝えてほしい。
- 主体性を持った活動を増やしたり、部活動をさらに活性化することで、学校全体のさらなる活性化を図って欲しい。
- 今後も今までどおりのきめ細かな生徒指導を継続してほしい。
- 挨拶がしっかりできていて、服装もきちんとしているのは高く評価したい。
- 部活動の活性化が必要である。そのためには学校全体として部活動の推進に取り組んでいるという雰囲気作りが重要である。
- インターネットにおける諸問題は、モラルの問題である。人間としての力をつける指導をお願いしたい。

- マナーやモラルは社会生活の基本であり、外部講師の活用等、様々な立場の方からの声を聴き、認識を深める必要がある。
- 教員の生徒に対する対応は非常によいと思う。保護者がもう少し学校に関心を持ち、学校と家庭との連携協力体制が取れるとよい。
- 校風を大切に生徒を指導してほしい。

(3) 確かな学力の向上 <学習指導・授業改善>

- ICT機器の積極的な活用による授業改善の取組に期待する。
- 生徒による授業評価については、アンケートだけでなく実際の授業の中身も大切である。生徒に評価者としての力をつけていくことも求められる。
- 公開研究授業の研究協議で、教員同士で改善点の指摘が少ない印象を受けた。よりよい授業を目指して積極的な意見交換をお願いしたい。
- アクティブラーニングを取り入れた授業により、生徒の能動的な活動が促進され、双方向型の授業がおこなわれることは、大学に入ってから大いに役立つものである。
- 生徒の学力実態を適切に把握するためには、日常の授業や定期テスト等に加えて業者テストなども実施するなどにより、客観的なデータを収集することが望ましい。
- 基礎学力を高める取組、工夫が感じられる。生徒による授業評価の結果からは、生徒の発言・意見・考えを引き出す授業が求められていると思われる。
- 授業の工夫がよくなされている。卒業式は3年間の学びの集大成である。良い卒業式は、授業工夫がなされている証明である。

(4) 社会生活実践力の育成 <キャリア教育>

- 資格や検定、部活動に関する満足度が低いように感じる。工業系の授業が少ないことも原因の一つと思う。
- 「仕事のまなび場」を通して社会とつなげる取組は高く評価できる。
- ガイダンスルームやその進路資料については多くの生徒にとっては有用なものと思われていますが、利用しない生徒はどのようにしているのか調査分析する必要があると思います。
- 就職などの進路決定は経済の動向に影響される要素が大きいと思いますが、キャリア活動やキャリア実習を行うことで就職などへの準備をさせる必要があると思います。
- 卒業後、進路先を辞めるという話を聞いた。卒業後の調査をやってもらいたい。キャリア教育において、厳しい社会の現実をどのように理解させるのか、長期的な視点をもって指導していただきたい。
- 産業界の動向もリサーチし、若い人材を欲している産業分野へ向けて、生徒育成をお願いしたい。
- 特に定時制及び通信制の課程において、生徒に対するキャリア教育の推進が必要である。また、キャリア教育の実施においては、生徒一人ひとりの個性や特性を踏まえた指導を行うことで、将来への展望をしっかりと持たせることが重要である。
- 進路先が未決定のまま卒業する生徒や、通信制の課程における非活動生徒の数が多いため、改善に向けた手立ての構築にお取り組みいただきたい。特に通信制の課程においては、入学年度での指導を丁寧に行うことが、卒業率の向上において有効と思われる。
- 自己管理ノートは大変重要な取組である。自己分析能力が身につく。自己目標に向けての生徒が達成しやすいサポートなどを確立していくとよい。担任の先生も、生徒個人に合わせた指導ができると望ましい。

(5) 地域との協働・連携による開かれた学校づくり <地域等連携>

- 地域の施設では生徒のボランティア参加に感謝している。世代間のつながりが地域活動のテーマでもあり、小・中学校などとの連携にも期待する。
- 単発的な取組として終わるのではなく、ひとりでも多くの生徒がボランティア活動を続けるよう期待する。
- 災害時に学校は地域住民の拠り所となる。小・中学校が避難場所だといっても、実際に避難してくる人が必ずいる。そういう人を放置できない。対応が求められる。
- 9月に自治会の防災訓練があるので生徒にも参加してもらいたい。また、10周年記念式典で生徒達が自主的に運営している姿が見られた。もう一歩中に入って具体的に行事を行っていくと生徒はさらに伸びると思う。良い面を引っ張ってほしい。
- 地域清掃の取組がありがたい、この取組はハマロードサポーターに登録すると、清掃している道路等に、看板を掲示してもらえる。生徒にとって達成感や責任感を持ってもらえるのではないかと思う。
- 信頼される学校づくりには、地域が学校と関わりたいと思えるようになることが重要である。そのためにも、地域と学校が関われる行事等が必要ではないか。また、日ごろから地域研究に関する授業があるのだから、地域の歴史上の偉人、祭、地名の起源、口承伝説などについて、文化祭等で発表する機会を設けてはどうか。
- 高齢化が進む地域の防災活動において、高校生の協力を期待する。
- 夜間の避難訓練を工夫して行っていると感じる。次年度は、地域・中学校と連携し一層充実したものにしたい。
- 防災に関する活動が良く推進されているが、防災訓練には、地域参加も必要である。

(6) 信頼に根ざした学校づくりの推進 <学校運営・学校管理>

- ホームページは在校生、保護者のみならず、中学生や地域にとって重要な情報源となっているので、今後とも充実を図られることを希望します。
- 挨拶をする取組を進めていると聞いている。挨拶をできる方が、学校内の雰囲気良くなるし、挨拶はモラルの向上や相互コミュニケーションを図る事にも繋がっていく。防犯にも活かされるので、校内のみならず、地域の人と生徒とも挨拶できると良い。
- 卒業式で生徒の感想が紹介されたが、「先生が本気でよかった。」という言葉があり、教師の姿勢が生徒に与える影響は大きいと感じた。特に定時制の生徒は家庭的にも恵まれていない生徒が多いため、親身になり本気で向き合う機会を大切にしたい。
- 再編統合から10年を経たが、再編された新校の中には、ともすると学校の特徴や特色が薄れてきている学校や、教育内容が分かりにくくなっている学校が見受けられる。「単位制」「～学科」であるということだけでは、もはや特色とは言えないのではないか。
- 業務内容を見直しながら、円滑な業務遂行していることを評価したい。
- 節電意識を向上させるために具体的なデータを視覚化することなど工夫する
- 先生方が一生懸命やっている。チームワークが取れているのではないかと思っている。先生方のまとまりが外から見て感じることができる。

4 新タイプ校教員向けアンケート結果

【対象】「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの県立高校37校の常勤教員

【対象校】別紙参照

進路に関するガイダンス、資格取得による単位認定についての情報提供や、生徒に興味・関心を持たせる授業では「十分にできている」「できている」「概ねできている」と回答した「達成群」が85%以上あり、校種の特徴を活用し、多様な学習機会の拡大や生徒一人ひとりのニーズにより一層きめ細かく対応した取組の成果といえる。

一方で、「生徒の興味・関心や進路希望に基づいた、新タイプ高校の校種の長所の活用」、「校外学習や地域との連携など、地域の教育資源を教育活動へ活用する能力」についての達成群が約72%、約70%（平成24年度は約74%、約75%）と、やや低い結果となった。

